

多職種連携で患者様主役のやさしい医療をサポートする

医療福祉支援センター 一井 美哉子 看護師長



PROFILE

いちいみやこ◎1976年国立大阪病院（現大阪医療センター）附属看護学校を卒業後、愛媛大学医学部附属病院へ。病棟・外来看護を経て、2001年医療福祉支援センターに配属。元気の源は「この人に出会って良かったという感動」、「人と語り合うこと」。

患者様とご家族に保健・医療・福祉相談等の総合医療サービスを行うと共に、患者様が満足できる適切で質の高い医療を提供することを目的に、医療福祉支援センターが設置されました。当センターは専任医師、看護師、ソーシャルワーカー、事務職員で構成されています。主な業務は、①患者サービスの質の向上を図る「総合医療相談と苦情の対応」。②院内の医療チームと地域他機関・多職種が連携し、継続的な医療や介護を必要とする患者様が退院したその日から安心して生活できるよう支援する「退院援助」。③紹介初診患者様の待ち時間や経済的負担を少なくし大学病院本来の機能を発揮する「FAX紹介患者様の事前予約」。④病院全体で病床を共有し、患者様が早急に入院できるよう空床を利活用する「病床の調整」です。中でも退

院支援は、退院を前に患者様・ご家族を交えて専門性を生かしたサポート態勢が組めるよう話し合うことを大切にしています。これまで950事例の退院支援に関わり、各機関との連携や人的ネットワークの構築、情報提供の重要性を認識すると共に、患者様・ご家族を全力でサポートする関係者の熱い思いとチームワークに在宅医療の限りない可能性を実感しています。

「特定機能病院として高度な診断・治療を行うだけでなく患者様が豊かで幸せな人生をお過ごしになるための支援をさせていただく所です」と言えるように、そして病院と地域をつなぐ「なくてはならない部署」として、真の意味での「患者様主役」を目指していきます。皆様からご相談やご意見をいただくことが何よりも活動の原動力となります。どうぞお気軽にお声をかけてください。

全国に誇る設備とスタッフで、患者様の回復に向けて治療を行う

集中治療部 部長 土手 健太郎 医師



PROFILE

どてけんたろう◎愛媛大学医学部附属病院・集中治療部部長、講師。1981年愛媛大学医学部卒業、医学博士。麻酔科、蘇生科、集中治療を専門に活躍。趣味は金魚を飼うこと。小さい金魚を大きく育てることが楽しみ。

愛大病院の集中治療部は、総合的集中治療室（ICU）を有しており、一般病棟では扱えない重症な患者様を収容して集中的に治療を行っています。その7～8割は外科系の大きな手術後の患者様です。他には、各病棟で突発的に急変した方や重症の救急患者が入室されています。多くは呼吸不全、循環不全、代謝不全あるいは多臓器不全に陥った方で、こういった最重要疾患に人工呼吸器、心循環補助器、各種血液浄化法などの先端技術を駆使して治療にあたります。

当ICUはハード面で、全国に誇れる設備が導入されていますし、機能的で患者様1人に対する広いベッドスペースも確保しています。ICUのベッド数は6床で、少ないと思われるかもしれませんが、HCU（高度治療室）病棟と連携することでなん

とかやりくりしています。ソフト面は看護の充実があり、いかなることにも対応できるだけの看護師がついています。医師は集中治療専任が3名。集中治療専任の医師がいるのは、県下の病院では当病院だけです。さらに、麻酔科蘇生科と共同で運営していますので、大きな手術を受けた患者様の場合、麻酔蘇生を担当した医師が術中の状況を見ながら、そのまま術後管理ができるのもメリットです。当ICUでは患者様の希望やご家族の希望、多くの医師や看護師の意見をふまえ徹底的に話し合い、患者様の尊厳に十二分に留意して治療を行っています。

これからも、優れた施設を最大限に利用して、いい結果を出し、地域の人に親しまれる病院の一翼を担うICUを目指します。